ポスターD 班

大阪大学大学院工学科

地球総合工学専攻
社会基盤学コース
出口一郎研究室の取り組み

発表者・・・原田、馬野、小磯、西尾

訪問の動機

工学部に興味があったからです。（原田）

今のアマモの保全についてを知りたかったからです。（小磯）

研究に興味があったから。（西尾）

震災について知りたかったから。（馬野）

今回は研究内容の中から「アマモ場の保全と再生」について発表します。

アマモ場とは？

陸上の草と同じように花を咲かせる海藻がまとまって生えている場所のこと。

アマモは海中に生える種子植物なので、生育には清浄な水質、砂泥質が必要とされます。
しかし、護岸工事や、工業排水による水質汚染でアマモ場の数は減り続けています。

アマモ場の保護は一般的に移植が行われています。移植には

① 種子の採取　② 養生（苗まで育てる）

という工程を経ています。

アマモの種子は稲穂状の形状で種子の採集量は
少なくともアマモ場30㎡ができる3万粒が必要になります。
種子を採集した後は、養生され、苗の状態（10cm程に育った状態）で
アマモが生息できる海岸に移植します。

養生方法は、
種子の採集は5月～6月頃に行われますが（アマモ種子バンク HP より）
海水と砂が入った水槽で育てられます。